

三 | 目次 |

富士通ゼネラルグループについて



1. 目次／編集方針
2. 企業理念と目指す姿
3. CEOメッセージ
5. 価値創造のプロセス
6. 価値創造の歴史
7. At a Glance (2024年度実績)

事業戦略



9. 富士通ゼネラルグループの事業
10. 空調機部門・テックソリューション部門

持続可能な社会への貢献



12. サステナビリティの位置づけ / 事業活動とサステナビリティの繋がり
13. サステナビリティの推進 / マテリアリティの特定
14. マテリアリティ
15. 特集 ① 環境負荷の低減
16. " ② 人材組織基盤の強化

ガバナンス



18. コーポレートガバナンス
20. 役員報酬
21. スキル・マトリックス / 取締役会での監督
22. 役員紹介
24. 資本市場との対話
25. コンプライアンス
26. リスクマネジメント

データ



28. 財務ハイライト
29. 非財務ハイライト / 主な外部評価
30. 10年間の財務サマリー
31. 会社情報 / グループ情報

三 | 編集方針 |

統合報告書では、投資家を始めとした様々なステークホルダーの皆様に、当社グループの財務・非財務情報を伝え理解を深めていただく事を目的に、業績・成長戦略・サステナビリティ・ガバナンスの取り組み等の情報を中心に説明しています。

報告対象期間	2024年度 (2024年4月1日～2025年3月31日) ただし、一部はそれ以外の期間の内容も含みます。
報告対象組織	株式会社富士通ゼネラルおよびその連結子会社
発行 (第1版)	2025年8月6日
改定 (第2版)	2025年9月24日 *温室効果ガス排出量を、速報値から確定数値に差し替えました。
お問い合わせ先	コーポレートコミュニケーション室、CSUO室

* 本報告書の一部または全部を許可なく転載することを禁じます。

◇「ノクリア」は株式会社富士通ゼネラルの登録商標です。

◇「AIRSTAGE」は株式会社富士通ゼネラルの登録商標です。

■ 情報開示体系

	Webサイト	冊子またはPDF			統合報告書 (本紙)
財務情報	I R情報ページ 	有価証券報告書 	決算短信 		
非財務情報	サステナビリティ情報ページ 	サステナビリティデータブック 			

■ 将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、富士通ゼネラルグループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これらの予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が異なるものになる可能性があります。読者の皆さんには以上をご承知いただきたくお願いいたします。

三 | 企業理念と目指す姿

富士通ゼネラルの企業理念

FUJITSU GENERAL Way

Our Mission

私たち、富士通ゼネラルグループが目指すべき姿を宣言したものです。

共に未来を生きる

私たちは革新的なモノづくりを通じて、世界中のお客様と社会のために、安らぎに満ちた、今日にない明日を届けます。

企業理念

Our Philosophy

Our Mission を実現するため、私たちが大切にする考え方を示したものです。

自発的に取り組みます

私たちは、自己成長のための努力を惜しまず、たゆまぬ創意工夫と先見力で、自ら新しい事に挑戦します。

人を思い活かします

私たちは人を思いやり、異なる文化と多様性を活かし、協調と対話を通じて、人の可能性を最大化します。

誠実さを大切にします

私たちは、誠実さを旨とし、常に高い倫理観を持って、人として正しい道を歩みます。

行動規範

富士通ゼネラルグループの社員として厳守すべきことを表したものです。

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います

- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

富士通ゼネラルの目指す姿

Creating a Life Conditioner

私たちが支え、守り続けて行くのは、大切な人や家族の快適。

そして、今や災害とも言える猛暑や寒波からの健康と街や地域を支えるサステナブルでウェルビーイングな暮らしです。

未来の子供たちの笑顔や地球環境という、“全ての LIFE ”を守り続けたい。

私たちは Air Conditioner を作ることから、Life Conditioner を創造していきます。



≡ | CEOメッセージ | =

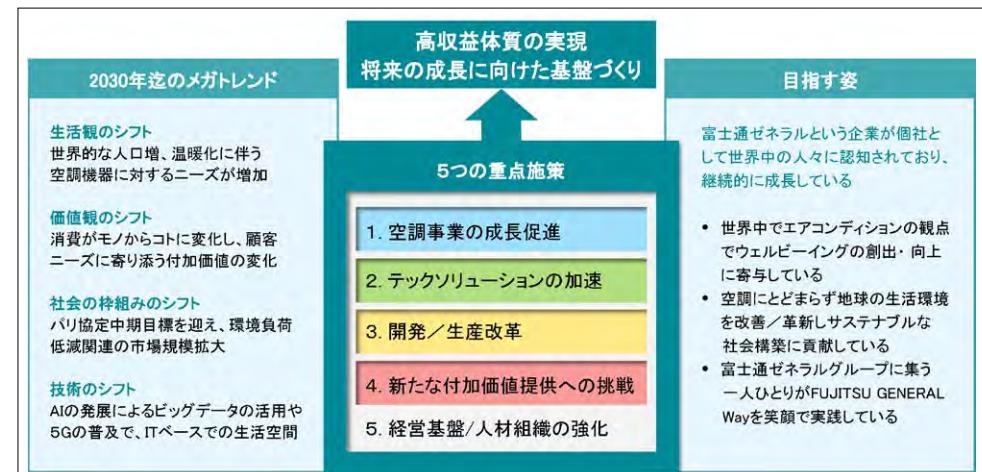
高収益体质の実現と、将来の成長に向けた基盤づくり

富士通ゼネラルが個社として世界中の人々に認知され、継続的に成長し、サステナブルな社会構築に貢献していくためには、企業として「利益」にこだわり、高収益体质を追求していくことが必要です。利益を得ることで、会社の発展への投資が可能になり、会社全体やステークホルダーの皆様の幸せにつながっていくと考えています。

その実現に向けた基盤づくりとして、ビジネスラインの「空調機部門」と「テックソリューション部門」の2部門への集約、全社横断でビジネスの推進・支援を担う各機能を、CEOをはじめとしたそれぞれのCOOが統括する新たな組織体制の導入、さらには全社プロジェクトである、「Mission KIZUNA」の立ち上げなどを進めてまいりました。今後はその取り組みの着実な実行を通じて、高収益体质の実現と、将来の成長に向けた基盤づくりに邁進してまいります。

■ 今後の方針性のフレームワーク

変化・変革を続ける世界の中で、富士通ゼネラルグループが「目指す姿」を現実にするため、喫緊の目標である、高収益体质の実現と将来の成長に向けた改革を進めていきます。



■ 5つの「中期重点施策」について

1. 空調事業の成長促進

成長地域（米国、欧州、インド）および強化領域（日本における住宅設備ルート）へのリソースシフト、営業体制強化（販売代理店との関係強化、一部地域における直販化）を通じたお客様需要への貢献による売上成長

2. テックソリューションの加速

- ①当社の強みを活かした消防・防災領域での新たな顧客価値の創造
- ②EMS事業での付加価値向上

3. 開発／生産改革

- ①サプライチェーン全体で最適化された生産体制の構築（内外製最適化、将来的な地産地消への移行）によるコスト競争力強化および在庫最適化
- ②お客様への最大コストパフォーマンス実現に向け、開発・調達力強化によるタイムリーな製品・サービスの市場投入および最適コストの達成

4. 新たな付加価値提供への挑戦

- ①空調ソリューション事業の強化
- ②関連サービスのクラウド化を通じた一気通貫の顧客接点の拡充・データの利活用に基づく新たな顧客価値の創造

☰ | CEOメッセージ（続き） |

③サステナブルでウェルビーイングな暮らしを支えることを意味する「Life Conditioner」の観点に立った新たなビジネスの創造

5. 経営基盤／人材組織の強化

- ①経営基盤の強化を通じた高収益体制への変革
- ②社員がいきいきと働き、スキルを高めて自己成長を実現できる労働環境の実現
- ③サステナブルな社会構築への寄与を通じた企業価値の向上

■ Life Conditioner の創造

富士通ゼネラルが目指す事業のベースは、今まで培ってきた空調機と、テックソリューションの事業です。そしてその空調機、テックソリューション事業から派生する、あるいはその周りを取り巻くエリアに、私たちが提供する価値を広げていきたいと考えています。具体的には、以下の4点を基本として事業を開拓していきます。

1点目は空調エコロジーです。世の中が大きく変化していく中で、富士通ゼネラルが提供できる価値を拡大し、環境や省エネで社会に寄与していきたいと思います。

2点目はウェルビーイングソリューションです。単に空気を冷やす、温めるだけではなく、当社の製品・サービスを利用する人々の健康や快適性、あるいは効率性、これらをいかに高められるか、そこにこだわっていきたいと思っています。

3点目は空調サービスソリューションです。空調機などのハードウェア製品をお客様に届けるだけではなく、その後のサービスやメンテナンスなど、お客様の暮らしに長く関わっていくような価値の提供を、ぜひ実現していきたいと思います。すなわち、クラウドやネットワークでつながったエネルギーの管理プラットフォームの他、お客様の快適性・安全性を高める空調ライフサイクルをサポートする、サービスや製品を提供していきたいと思います。

4点目はテックソリューション事業で強みを持つ消防向けシステム、防災ソリューションです。それをさらに拡大させていき、その先で防災という観点と空調という観点、あるいはその周りのライフコンディションという観点でそれを結びつけていくことによって、新たな価値を生み出していきたいと考えています。

それには、私たちが日々持っている富士通ゼネラルの強みを生かしていく必要があります。すなわち、ものづくり、そして技術力、そしてグローバルチャネル。これらの強みを最大限に生かせるような経営を行っていきたいと考えています。

■ 上場廃止に関するごあいさつ

富士通ゼネラルは、株式会社パロマ・リームホールディングスによる株式公開買付（TOB）と、その後の一連の手続きを経て同社の完全子会社となることから、本年8月19日に上場廃止となります。

1955年の上場以来、約70年の長きにわたり成長を続けてこれたのは、ひとえに株主を始めとするステークホルダーの皆様による、多大なご支援のたまものです。長年にわたり当社の経営にご理解と温かいご支援を賜りましたことを心より深く感謝申し上げます。

今後は「モノづくり」への想いを共有するパロマ・リームホールディングスグループに加わることで、事業シナジーの追求を通じて、より一層の事業拡大・成長を目指すとともに、企業理念で掲げる「共に未来を生きる」の実現に向け、ステークホルダーの皆様にたしかな価値を提供しつつ、世界中の人々と共に未来を切り拓いてまいります。

2025年8月



三 | 価値創造のプロセス |

富士通ゼネラルグループ企業理念「共に未来を生きる」の実現

インプット

富士通ゼネラルの強み



モノづくり

世界初・業界
初を創出



テクノロジー

ヒートポンプ /
インバーター、
通信技術



グローバル チャネル

世界 100 カ国
以上への展開

アウトプット

サステナブルな商品・サービス

空調エコロジー

- ・製品 CO₂ 排出量削減
- ・省エネ監視 / コンサル
- ・資源循環事業

空調サービスソリューション

- ・エネルギー管理プラットフォーム
- ・空調ライフサイクル
サポート



ウェルビーイング ソリューション

- ・健康につながる快適性追求
- ・空気質モニタリングシステム

アウトカム

Creating a Life Conditioner

私たちが支え、守り続けて行くのは
大切な人や家族の快適。

そして、今や災害とも言える猛暑や寒波からの健康と
街や地域を支えるサステナブルでウェルビーイングな暮らしです。

未来の子供たちの笑顔や地球環境という
“全ての LIFE ” を守り続けたい。

私たちは Air Conditioner を作ることから
Life Conditioner を創造していきます。

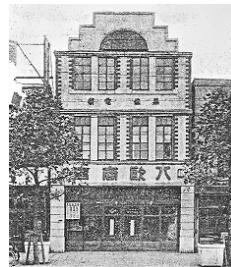


三 | 価値創造の歴史 |

■革新的なモノづくりの歩み

富士通ゼネラルグループの企業理念では「- 共に未来を生きる - 私たちは革新的なモノづくりを通じて、世界中のお客様と社会のために、安らぎに満ちた、今日にない明日を届けます。」と掲げています。私たちはこれまでにも、世界初の先進的な製品・技術を数多く生み出し、お客様と社会と共に歩み成長してきました。これからもグローバル社会の一員として、幸せな毎日を過ごすための革新的なモノ・コト・サービスを世界中に送り届ける企業を目指すとともに、快適・健康・安心・安全な社会を実現し、その先のいのちを見つめ、世界中の人々と共に未来を生きていきます。

○創業



○日本初：国産テレビスタジオ副調整装置を日本放送協会に納入



○日本初：テレビ水平帰線消去方式を開発



1930年代

1940年代

1950年代

1960年代

1970年代

1980年代

2000年代

2010年代

2020年代

■革新的なモノづくりに向けた主な活動（2020年代）

□マルチポジションタイプの全館空調方式エアコンを共同開発（北米向け）

当社とパロマ・リームホールディングスグループのリーム社は、両社の技術を融合することで、コンパクトな室外機でありながら大容量、かつ業界トップクラスの省エネ性能を持つ、マルチポジションタイプの全館空調方式エアコンを共同開発しました。

□豪雨や騒音下でも聞き取りやすい防災無線放送の新技術を神戸大学と共同開発（国内向け）

季節や天候などの変化に合わせた強調アルゴリズムの適用で、防災行政無線放送をより確実に伝達する新技術「SIAFOLS（サイアフォルス）」を開発、避難情報などの聞き取りやすさを向上することで、地域住民の安全確保に貢献します。

□TCFGを完全子会社化（タイ）

空調機事業の基盤強化に向け、コンプレッサーの製造・販売を行う持分法適用関連会社 TCFG Compressor (Thailand) Co., Ltd. の株式を追加取得し、完全子会社化しました。



□業界初！外せる送風路エアコンを発売（nocria W / nocria L）

自分で手入れしたいという多くの声に応えて、ホコリや汚れが溜まりやすい3つのパート（上下風向版・左右風向版・送風路パネル）が、簡単に取り外せる機構を開発しました。今までには届かなかった所も、楽にお手入れが可能です。

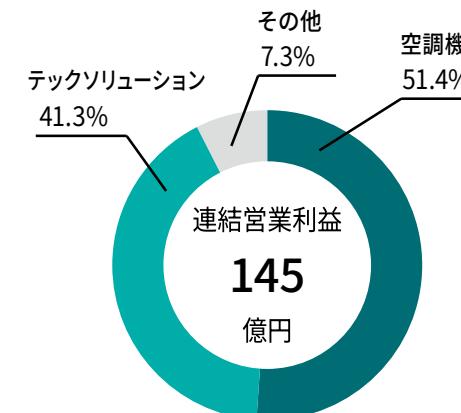
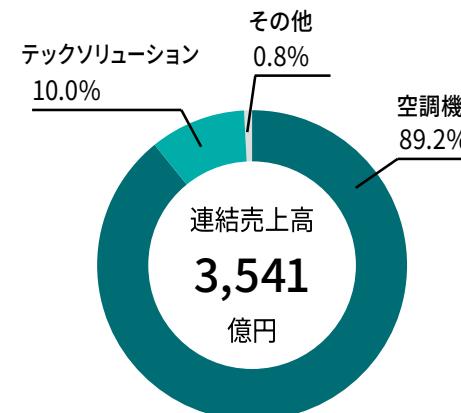
三 | At a Glance (2024 年度実績)

■ 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におきましては、空調機、情報通信システムの売上が増加し、連結売上高は 3,540 億 8 千 7 百万円（前期比 11.9% 増）となりました。

損益につきましては、北米における冷媒転換対応などのマイナス要因があったものの、在庫適正化のため前期の出荷を抑制した海外向け空調機の增收効果が大きいことに加え、コストダウンの着実な進展や情報通信システムの增收効果等もあり、営業利益は 144 億 7 千 2 百万円（同 151.8% 増）となりました。経常利益は、前期の利益を大きく押し上げた為替差益がなくなり為替差損を計上したことなどから、138 億 6 千 7 百万円（同 3.5% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、電子デバイス事業の絞り込みなどポートフォリオ変革の実行に向けた事業基盤改革費用を特別損失として計上したことなどから、39 億円の損失（前期は 30 億 6 千 7 百万円の利益）となりました。

■ セグメント別構成



■ その他の状況

- ・経常利益 **139 億円**
- ・親会社株主に帰属する当期純利益 **▲ 39 億円**
- ・総資産 **2,733 億円**
- ・自己資本 **1,308 億円**
- ・自己資本比率 **47.9%**

■ 地域別構成（売上高）

